保健所だより

『結核は過去の病気ではありません!!』

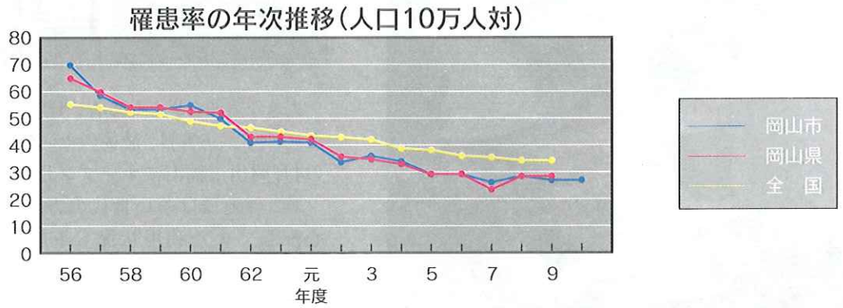
＜一面のクイズ解答＆解説＞

1.正解は…C.470人

平成10年の1年間に登録のあった患者数は469人です。
結核は今でも最大の感染症です。全国で年間新規発生患者数42,715人、死亡者数は2,742人（平成9年）です。

2.正解は…C.150人

岡山市では年間新規発生患者数162人（平成10年）で罹患率25.8と、ここ5年以上はほとんど下がっていません。
罹患率とは、この1年の間に結核にかかり届けられた人の割合（人口10万人あたり）です。



3.正解は…B.高齢者

発病者の半数以上は60歳以上の年齢層で占められています。高齢者の結核の多くは若い時期の感染から長い年月の後に発病するパターン（内因性再燃）です。

4.正解は…B.せき、たん

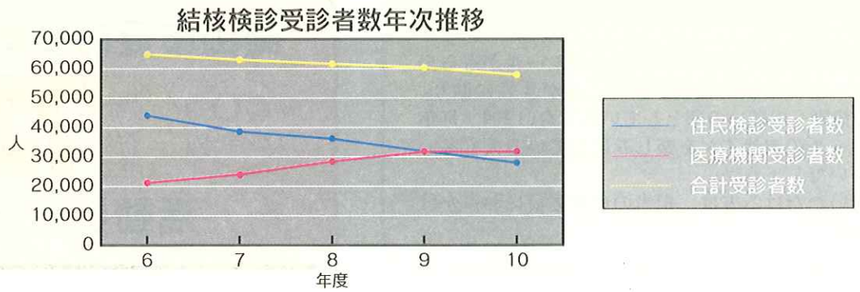
結核菌を含んだ「たん」を出す患者がせきやくしゃみをすると、しぶきが飛び散ります。このしぶきの中の結核菌を肺の奥まで吸い込むことによって感染がおこります。したがって、結核患者のすべてが感染させるわけではありません。

5.正解は…C.レントゲン検査

発病しているかどうかは、レントゲン検査で調べます。感染と発病は異なり、感染しても発病する人は数パーセントから10数パーセントです。

結核を発見するには…

1.結核検診　2.有症状受診（2週間以上の長引くせきにご用心）



●この冊子に関するご意見ご感想などがありましたら事務局まで・・・。発行:岡山市愛育委員協議会（事務局）〒700-0914　岡山市鹿田町1-1-1　岡山市保健福祉会館2階　TEL 086-212-2603　FAX 086-212-2642

あい

健康で豊かな
生活をめざす
愛育活動の情報誌

VOL.5
1999.10
岡山市愛育委員協議会

ひとりひとりの

『結核予防は、注意から』

― せきが2週間以上続くようであれば、かぜだと思い込まないで医療機関で受診しましょう。―

毎年、検診のお知らせや検診票の配布をしている各地区愛育委員会では、結核の現状について研修し、感染するという面からまだまだ油断のできない病気であることを知りました。地区の皆様への声かけにいっそう力を入れなければと話し合いました。

西大寺地域愛育委員連絡会でも各地区愛育委員会長と保健婦さん参加のもとに、結核等感染症について研修をしました。

クイズをしたり、グループ討議をしたり、わきあいあいの雰囲気のなか、改めて結核についての関心が低いことを知りました。

各地区で結核研修

皆さんもクイズに挑戦してみて下さい

1.岡山市には何人ぐらいの結核患者がいるでしょう。
　A.70人　B.170人　C.470人

2.岡山市で1年間に新しく結核にかかる人は約何人でしょう。
　A.25人　B.50人　C.150人

3.結核の発病率の高い年代は、次のうちどれでしょう。
　A.若者　B.高齢者　C.差はない

4.結核はどのようにして感染するのでしょう。
　A.患者の使用したもの　B.せき、たん　C.食べ物

5.結核が発病しているかどうかを調べるには、どのような検査を受ければよいのでしょう。
　A.ツベルクリン反応検査　B.BCG接種　C.レントゲン検査

※4面の「保健所だより」欄に解答と解説があります。

あいと～く

♥ ai5号の準備にとりかかっていた7月、厚生省から結核緊急事態宣言が出ました。病院での結核集団発生も報道されました。

♥「今年は、レントゲン検診を受ける人が多いんよ」とある地区の愛育委員が話していました。私の地区の胸部レントゲン検診も間もなくです。近所の方を誘って、私も受診します。

愛育委員会は市から委託を受けて結核予防活動をしています

A地区の取り組み

シンポジウムの風景

昨年、若い結核患者の発生があったA地区では、3月24日の世界結核デーにあわせて、「早期発見のためのレントゲン検査を行う」との連絡を保健所から受けました。実施まで10日。地区愛育委員は、ポスター貼り、チラシの全戸配布、今まで以上に声かけにがんばりました。当日は3会場で380人余りの人が受診されました。

また、愛育委員を対象に『考えてみませんか。今なお、最大の感染症・結核について』と題してシンポジウムを開き、直接携わった医師・保健所長・保健婦・地区愛育委員会会長をシンポジストとしてお話を伺いました。

「結核は過去の病気、心配ない病気と思っていたが、考えが変わった」「早期発見によりほとんど治るので検診の大切さがよく分かった」「今後、胸部レントゲン検診を毎年受けるよう、地区の人々を誘いたい」等々シンポジウムに参加した人たちの感想がありました。とくに、若い愛育委員に結核を知ってもらうのに役に立ちました。

B地区の取り組み

運動会で健康診査を呼びかける愛育委員（本文と写真は関係ありません）

B地区も結核患者の多い地区として、住民を対象に講演会を開く一方、年2回のレントゲン検診車による集団検診を実施しましたが十分な効果はあがりませんでした。

受診されない理由を聞きましたところ、「今さらこの歳で結核なんかになるもんか」という高齢者の多かったこと。また「いつも医者にかかっているから」という方もおられました。

ところが、小学生のお孫さんが結核と診断され、感染経路を調べてみると、同居のおじいさんの風邪が長引き体調がすぐれないのをそのままにしていたのが原因だったということが分かりました。

「やっぱり検診を受けていないとこんなこともあるんだなあ」と愛育委員で話し合い、結核についてさらに研修をし、受診の啓発に努めています。

C地区の取り組み

C地区愛育委員会では、自分の受け持ち町内の方々に、健康世帯台帳を元に対象者（15歳以上で学校や職場で受けるチャンスのない人）を調べ、個人受診票に住所・氏名を書いて検診日程表と共に各戸に配布し、受診のお勧めをしています。なにかの都合で検診車での検診を受けられなかった方には、再度お勧めをするようになって、現在は80～90%の人が受診されるようになりました。

住民検診で受付をしている愛育委員

複十字シール運動

†は複十字といって世界共通の結核予防運動の旗印です。岡山市愛育委員協議会も結核や肺がんなど胸部の病気をなくすための呼びかけと、その事業をすすめるための資金募集を目的に行われている複十字シール運動に参加しています。

1口200円の募金をすると、6枚綴りのシールがもらえます。シールは手紙や包装の封印、はがき等に貼り、お互いの健康への願いの印としている人もいます。毎年変わるシールのデザインを楽しみにしている人も多いのではないでしょうか。

ご協力いただける方は、担当の愛育委員にお声かけください。

あい探訪

南ふれあいセンター

大きな客船を思わせる青い建物、この南ふれあいセンターは、5番目、最後のセンターとして、今年の4月岡山市福田にオープンしたばかりです。

「この地域は若い世代の方が多いんですが、心配していた利用状況も予想以上に好評で、ホッとしています」と館長さんはおっしゃっていました。

8月27日からデイサービスセンターもスタートし、センターとして本格的に稼働を始めました。

お伺いしたとき、囲碁を楽しむ方が通路まであふれていたり、アスレチックコーナーで汗を流す方が大勢いて、ふれあいの場としてすでに地域に溶け込んでいるようでした。

「これからは、地域の方々の健康対策にも力を入れていきたいですね」ともおっしゃる館長さん。このセンターが、福祉・ふれあい・保健の3つの面で、より身近な施設として親しまれることを、おおいに期待します。

まだ間に合う結核検診

4月から各地区を巡回した市の結核検診車は10月でほぼ終わります。しかし、40歳以上の方なら、肺がん検診とあわせて11月30日まで医療機関で受けることができます。

「1年に1回、結核検診を受けましょう」とわたしたちは呼びかけています。

岡山市愛育委員会は 90地区で 4773人が 活動しています